



発行所 魚津市田方町80番地 魚津市役所 編集発行人 関口 長 (毎月1日・15日発行) (一部 三内) 魚津市友道 中部印刷株式会社



# 1957 迎春

## 年頭の辞

市長 寺田太吉



皆さんあけましてお目出度う御座います。昭和三十三年の新春を迎え思い新たなものがあります。新春といつても昨年の連続であり前年から残された多くの問題の重荷を背負った再出発だとも言えます。昨年は魚津市にとりましては最悪の年でありました。約十五万坪にも及ぶ市街地が一夜にして灰燼に帰した本市未曾有の大災害を蒙つたのでありまして、被災された方々には誠に御気の毒なことであり、深く御同情申し上げます。一日も早く再興されることを衷心から願ひしてやまない次第であります。市と致しましては、将来再びかかる災禍を繰り返すことのない様、本市百年の大計を樹て、都市計画、土

地等の問題もあり関係各位の御協力をお願いするものであります。住宅対策については、融資住宅、災害公営住宅、分譲住宅等の建設を予定し災害公営住宅は三百八十五戸建設予定中、本年度二百戸を道下地区及び経田地区に建設することに致しております。村木小学校の復興については、近代耐火建築の校舎を計画いたし、目下関係省に陳情し、その実現に努力致すものと

に、本市再建に万全の措置を講じたいと存じております。然しながら目的達成のためには、政府並びに県当局の御援助と御指導によりねばなりません。何よりも市民各位の御協力を待たなければ到底不可能の事でありまして、市の施策に對し深い御理解と絶大な御協力を切望するものであります。昨年は苦難の年でありましたから、今年こそは最良の年であることを念願するもので、幸い国際情勢は好転しつゝあり、日ソ兩國は十一年ぶりに国交を回復しなおい日本全国民が待望していた国連加盟が実現し、私達は心から喜ぶものであります。ソ連とは海をへだて、わが国と隣接する国の一つであつて、これとの戦争状態に名実ともに終止符を打ち、国交を回復して親善関係を

## 新年の挨拶

市議会議長 高水源次



昭和三十三年度の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。顧みまするに昨年は、本市にとりましては、実に大きな災厄の年でありました。即ち九月十日の大震災は、一朝にして千五百戸を灰燼と化し、巨額の損害を与え、七千有余の罹災者をして茫然自失せしめたのであります。幸に罹災者の燃ゆる復興意欲と市民各位の御同情、御協力は勿論のこと、全国

各地から寄せられた温かい御支援によりまして、取敢えず罹災者の応急的な援護対策ができましたが、市が業や住宅対策を推進すると共に、事業復興にも万全を期しつゝあるものであります。然しながら限られた財源でしかもこうした大事業を一挙に推し進めるためには、おのづから利害の摩擦と意見の衝突が予想されますので、何と申しまして市民各位の御理解と御協力を得ては達成できないことを深く御認識して戴き、和衷協同の精神をもつて御協力を願う次第であります。本年も昨年同様、この火災復興という大事業に全力を傾注せねばならぬことは

# 新年の賀

市長 寺田太吉  
助役 三由正敏  
収入役職務代理者 山沢貞二

### 魚津市議會議員

- 議長 高木源次
- 副議長 長田喜三右衛門
- 小林宗隆
- 島谷政隆
- 奥村順平
- 関井昌次
- 藤井秀信
- 河崎浅之助
- 関口与蔵
- 長谷川作次郎
- 朝野信治
- 稲沢弥一
- 伊藤正清
- 宮内吉次郎
- 千田源次郎
- 藤森要次郎
- 窪田杉次郎
- 川岸久平
- 西浦三郎
- 鉦田平吉
- 後藤宗作
- 清河与一
- 浦田忠治
- 花垣文吉
- 稲石寛二
- 大明利吉
- 大河崎直義
- 本多由利
- 浜田由利

(議席順)





